

20030

PCI 時に OFDI による 3D 画像が有効であった 1 症例

【背景】OFDI の 3D 機能を使用することで、血管の内側や stent の留置状態を詳細に確認することが可能となっている。今回、KBT が必要な分岐部治療において、OFDI による 3D 画像が有効であった 1 症例について報告する。

【症例】73 歳男性。#7 に狭窄を認め、同部位に Promus stent を留置した。#9 側へ distal の stent cell を狙って wire cross したが、OFDI-2D 画像では、proximal 側から wire cross されているような画像であった。しかし、OFDI-3D 画像を構築したところ、上記の画像は分岐入口部に突出した狭い crown の部分をみていることがわかり、re-cross しても stent の変形を招くと予想され、wire は適切な位置にあると判断しえた。KBT 後の OFDI-3D 画像で分岐対側の strut の倒れ込みを確認し、手技を終了した。

【まとめ】OFDI の 3D 機能は、分岐部病変治療における wire 位置の確認に有効であり、PCI の良好な治療結果につながると考えられた。

